

2014年（平成26年）9月27日（土曜日）

少年硬式野球

来春の全国選抜懸け

27日から能代山本など15会場
秋祭新人東北大会 能代は2日、地元で初戦

少年硬式野球の第36回秋祭新人東北大会は、27日から能代市の能代球場を主会場に県内15会場で開催される。リトルシニア能代は28日の2回戦から登場、同球場で気仙沼（宮城）―塩竈中央（同）の勝者と対戦する。

大会は27、28日、10月4、5日の4日間、東北6県から53チームが参加。能代市の能代球場、市民球場、二ツ井球場、赤沼球場、八峰町の峰浜野球場と御所の台球場、三種町のごおか中央公園スカルバ球場、藤里町の清水岱公園野球場のほか、大館市、大瀧村、男鹿市、由利本荘市、八郎潟町の計15球場でトーナメントを行う。大会上位4チームには、来春大阪府で開かれる全国選抜大会の出場権が与えられる。

能代の新チームは2年生2人、1年生10人の若いチームで日ごろの練習で徐々に力を付けており、東北の強豪を相手にその成果を試す。

先のミスノ旗争奪北東北大会は初戦敗退、県支部大会は6位と、上位進出はならなかった。しかし、県支部大会では本荘由利に5-7、秋田北・

秋田に2-6、秋田南に9-12でいずれも敗れたが、打撃面では手応えをつかんだ。大沢勉監督（66）は「他のチームに比べて人数や経験の差はどうしてもあるが、力のある選手たち。自分たちの力をぶつけられれば十分戦える」と語る。

打線は佐藤宝良（1年）、田口駿介（同）、越前谷竜斗（同）の長打力のあるクリーンアップを中心に、好機で得点を重ねていく。投手陣は主戦・越前谷竜斗と佐藤宝良の二枚看板。ともに球威のある直球が武器で、「二人とも良いボールを

投げる。経験を積んで相手の攻め方を学んでいけばもっと良くなる」と大沢監督も期待を寄せる。

金野蓮主将（2年）は「今までの公式戦では勝てていない。バッテリや守りのミスを少なくして、つなぐバッティングで勝ちたい」と意気込んで

でいる。